

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500394		
法人名	社会福祉法人 麗明会		
事業所名	グループホーム ばんだの里 1・2 (まとめ)		
所在地	鳥取県西伯郡大山町安原1118-1		
自己評価作成日	令和6年12月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	グループホーム ばんだの里
----------	---------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	令和6年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①利用者中心のケア:利用者一人ひとりの生活スタイルや希望に基づいた個別支援計画を作成し、定期的に評価・見直しを行っています。
 ②スタッフのスキル向上:スタッフの専門性向上のため、定期的な研修を実施し、最新の介護技術や認知症ケアに対応できる体制を整えています。
 ③安全管理:災害時にも迅速に対応できるよう、スタッフ全員に避難訓練や救急救命講習を実施しています。
 ④利用者の自立支援:利用者が自分のペースで自立した生活を送れるよう、日常生活の中での自主性を尊重した支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・大山の麓にあり、ホームの窓は大きく景観から季節を感じて生活できる環境にある。
 ・看護職員を配置し、医療的ケアの核となっている。新たなかかりつけ医である大山診療所と連携し、毎月の往診や緊急時の対応など、適切な医療を受けられるように支援している。
 ・看取りの際は看護職員を中心に職員、家族、医療機関と連携し、利用者の状態に応じた計画のもとチームで支援に取り組んでいる。
 ・愛猫を1匹飼育し、面ユニットを行き来しており、利用者の癒しになっている。
 ・コロナ禍を越え、利用者の高齢化重度化中、地域密着型事業所として新たにできることを職員がチーム一丸となって模索しており、今後の取り組みに期待が持てる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

★努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝のミーティングで介護理念の唱和、毎月1日は基本理念の唱和を行い、理念に沿って介護するよう努めている。また玄関に介護理念の掲示を行っている。	基本理念と介護理念を玄関及び職員室に掲示している。実践につなげるよう、ミーティングで毎朝唱和している。職員面接の際は理念に基づいた意見交換もしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ対応の自粛は緩和されたが、依然感染リスクはあり、地域との交流は控えているが、交流の方法を検討し計画して行きたい。	コロナ禍による自粛で交流が減り、また、利用者が高齢化重度化し、できる活動が減ってきているのが現状である。地域交流の一環として施設内で地域のボランティアによる獅子舞やマジシャンによる催しを行った。	少しずつできる交流を計画予定であり、今後に期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地区会長に参加して頂いたり、広報誌で認知症に対しての理解を広めている。入居者のご家族から相談を受けた時は、認知症への理解を深めて頂けるよう情報提供を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の暮らしの様子や、事業所の取り組み、ひやり・ハットなどを報告している。会議の中で頂いた質問や意見、助言などを参考にして、支援の改善、向上に努めている。	事業所の現状やヒヤリハット事象事例の報告をし、メンバーとの意見交換をしている。一例として、転倒や身体拘束の事例について振り返り、参考意見をサービス向上に活かしている。	災害時の連携体制についてさらに具体的な内容を確認してみてもどうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で利用者様の状況や各事業所の取組み、困難事例等を報告し意見や助言等を頂いている。また転倒などで病院を受診した場合は、速やかに担当者に報告している。	事業所の空き状況と新規希望者について情報交換をしたり、感染状況や事故による受診報告をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	令和6年度より「虐待及び身体拘束防止委員会」を設置し、月1回委員会を開催し、事例検討等を行っており、内容は運営推進会議で報告している。	毎月リーダー会議において、虐待及び身体拘束防止委員会を同じメンバーで開催し、事例検討を行っている。	委員会メンバーとして、リーダー以外に専任の委員を任命してはどうか。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	令和6年度より「虐待及び身体拘束防止委員会」を設置し、月1回委員会を開催し、事例検討等を行っており、内容は運営推進会議で報告している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている入居者があり、必要性について学ぶ機会となっており、身近な制度として受け止めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っているが、利用者やご家族の不安や疑問点に更に十分な説明ができるよう、今後はユニットのリーダー等の参加も検討して、理解・納得が得られるようにしていく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱の設置や家族アンケートを実施し、意見や要望を業務に反映させている。運営推進会議では、家族・利用者・地域の代表の方に参加して頂き、意見等をお聞きし、運営に反映できるよう努めている。	最近家族へのアンケートは実施していない。おたよりの中に意見用紙を入れてみたが、返信はなかった。介護計画についての担当者会議では家族に意見を聞いたり、電話で聞くこともある。	家族に対する満足度アンケート、または利用者への意見の聞き取りを実施してみてもどうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや毎月のカンファレンス、リーダー会等で意見交換しながら、意見や提案を反映出来るように努めている。年度末には個別面談を予定している。	日々の連絡は朝のミーティングと連絡ノートで情報共有し、月1回のカンファレンスで利用者のケアや業務について意見交換している。毎月リーダー会で業務に関する見直しや提案について意見交換している。	職員全体会はない。適宜、開催して積極的に意見を求めてみてはどうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、研修会参加、個々の努力、勤務状況等考慮し、各種手当や資格取得のバックアップ等、やりがいを持って働けるように努めている。子育て中の職員には、柔軟な勤務時間の設定など考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が研修を受ける機会が十分に確保できていない。また、ほほりモート研修となっており、外部から講師を招いての研修は行っていない。エルダー制度を取り入れOJTを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームにおいては、同業者との交流は行っていないが、オンライン研修等の機会に多少の意見交換はできた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際しご本人やご家族の話を伺い、ケアプランに反映させている。ご本人やご家族のニーズを職員で共有し、安心して頂くよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の状態やケアの方針について、ご本人やご家族のニーズを把握し、意向に沿えるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議やカンファレンスを開催し、まずは優先すべきサービスを見つけ対応している。他職種の意見も聞き、必要なサービスを見出し対応するよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切に、出来る範囲で洗濯物たたみや掃除のお手伝いをしてもらい、やりがいを持って生活して頂いている。また利用者様と共に過ごす時間を大事にし、職員と一緒におやつ作り等を行い楽しんで頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が難しいご家族様も多いが、月に一度日々の生活の様子を写真付きでお知らせしている。また、ご家族の協力を得てご本人をサポートできる関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の希望があればその都度柔軟に対応している。	以前まで行っていた面会人数・時間の制限をなくし、感染予防しつつ居室で面会をしてもらっており、毎週来られる家族もある。また、希望により墓参りに出かける利用者もある。	本人からの希望の把握が困難な場合、家族から具体的な過去の情報を伝えてもらうなど、本人が培ってきた人や場所との関係の把握を継続的に行ってほしい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性等を把握した上で、座席の配慮をしたり、職員が橋渡しをする事で利用者同士が楽しく会話できる場所を提供している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後も、相談等あればその都度お話を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で得た情報や、ご本人やご家族の思いや意向をお聞きし、それらを記録に残し情報共有している。意思疎通が困難な場合は表情などから思いを汲み取る様努めている。	日々の行動や表現から思いを汲み取り、また家族から情報を聞き取り、本人の視点に立って意向の把握に努めている。	何気ない会話や表情なども記録に残し、さらに思いや意向の把握につなげてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面会時に話を聞いたり、情報提供書などで生活歴やサービスの利用状況などこれまでの暮らし方を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々一人ひとりの体調や生活リズムを把握し、状態に合わせ無理なくその人らしい生活や活動ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気づきを毎朝のミーティングやカンファレンス時に意見交換しケアに反映させている。また、看護職や主治医に助言を頂きながら、現状に合った介護計画を作成するよう努めている。	本人や家族の意向、主治医などの意見を聞き取り、カンファレンスで話し合い、現状に即した本人がより良く暮らすための介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別日誌や連絡ノートに記録し、職員間で共有しながら現状に即したケアが提供できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	後見人制度の活用や生活保護の方の支援に柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の例大祭で神楽に來訪してもらい、交流ができた。地域行事への参加は新型コロナの感染リスクが依然あり見送った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回主治医に往診に来て頂いている。緊急時には連携を取り指示を頂き、病状によっては協力医以外の受診も支援している。	★入居前からのかかりつけ医へ受診する利用者もいたが、現在は協力医である大山診療所が入居者全員のかかりつけ医となっている。毎月の往診や緊急時の対応など、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関りの中で気づいた変化などを、すぐに看護職へ報告・相談し情報交換しながら、利用者が適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合、医療機関にできるだけ早く情報提供をしている。また早期退院できるよう、病院関係者、家族との連携をとりながら支援している。病院関係者とは相談などを通じ良好な関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化時の対応指針や看取りの指針を説明している。実際にそのようなケースになった場合、本人やご家族の要望をお聞きし、事業所として出来る事を説明しながら、ご家族の同意を得ながら支援している。	★重度化や終末期の対応指針について説明し同意を得るとともに、意向について都度確認している。看取りの際は看護職員を中心に職員、家族、医療機関と連携し、利用者の状態に応じた計画のもとチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生法の講習会を開催したが参加者は一部であった。AED使用方法については、動画による講習を実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合防災訓練を年2回、夜間想定と日中想定で開催した。災害時は地域住民に協力して頂くよう体制を築いている。	併設する小規模多機能事業所と合同で火災を想定した防災訓練を年2回実施している。また食料、飲料水、生活用水などを備蓄している。	火災だけではなく、地震、風水害、大雪などを想定した訓練も検討を望む。また、地域との協力体制について再確認をしてはどうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソン・センタード・ケアの考え方に基づき、利用者様の本来の姿を引き出せるよう対応している。	利用者が重度化しているが、職員は一人ひとりに寄り添い、プライバシーを損ねない対応に努めている。言葉かけの徹底が不十分だと感じる場面もある。	利用者に発している言葉の内容や語調等が、誇りやプライバシーを損ねるものになっていないか、日常的な確認と改善に向けた取り組みを期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の表情や言動などから、本人の思いや希望を汲み取り、理解するよう務めている。また自己決定しやすいような声掛けに務めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を優先するのではなく、利用者様のペースを大事にしケアを行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなど一緒に選んでいただいたり、毎朝の整容や必要時に身だしなみを整えることで、前向きな気持ちで過ごしていただけるよう心がけている。希望により月一回の訪問利用サービスを利用していただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おいしく安全に食事が楽しみとなるよう、ひとりひとりの状態に配慮しながら提供している。また食事中にゆったりとしたBGMを流し、食事を穏やかな気分で食べていただけるよう配慮している。	食事準備の手伝いができる利用者は減ったが、もやしの根取りをされる利用者もいる。主に厨房で一人ひとりの状態に応じた食事を作って提供している。毎月の誕生会にはケーキを用意するなど、食事を楽しむ工夫に努めている。	好評であった弁当を定期的に取り入れたりと、施設内の未使用場所の活用など、さらに食事を楽しめる工夫を期待する。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量をチェックし、十分でない時は好みの物を提供したり、形状を変更して提供し、摂取量が確保できるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに声かけし、できる部分は本人にさせていただき、出来ていない部分は介助を行っている。また洗口液を活用し口腔内の清潔を保つようケアしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を確認しながら、個々に応じた声かけや、トイレへの案内を行っている。排泄パターンを把握し、適時にトイレ案内を行っている。	一人ひとりの排泄パターンに合わせ声掛けやトイレ案内を行い、自立にむけた支援に努めている。各居室にトイレがあるが、それぞれの状態に応じてポータブルトイレやおむつを併用し、睡眠を妨げないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけや、便秘気味の人にはヨーグルトを提供するなど、一人ひとりのチェック表を確認しながら、便秘の予防に取り組んでいる。また、毎日体操や室内歩行等体を動かしてもらい、便秘予防に務めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、その日の気分や体調を考慮し変更も行っている。入浴を楽しんで頂けるよう、声かけに工夫したりタイミングに配慮している。	入浴時間は決まっているが、拒否のある利用者には無理強いせずタイミングを見計らって入浴できるよう支援している。重度化に伴い湯舟に入れる利用者は少なくなっている。	福祉用具や併設する施設の特殊浴槽の活用など、職員の負担が増えない範囲で湯舟に入れるような工夫を検討してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調やその日の気分に合わせて午睡の声かけをしたり、安心して眠れるよう部屋の環境作りに配慮している。また一日の生活リズムが崩れないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容について把握し、服薬支援を行っている。薬の変更があった場合は、看護職と連携をとりながら、状態に変化がないか確認しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの声を傾聴し、希望や能力にあわせ、洗濯物たたみなどをして頂いている。好天の日には屋外の散歩などで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉狩りなどに出かけ、季節を感じて頂いた。新型コロナ等の感染症の動向を見ながら、外食も計画していきたい。	コロナ禍によってできなかった外出も、ドライブ外出という形で花見や紅葉狩り、彼岸花を見に行ったりして季節を感じられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理するのは難しいため、ご家族より預かり事業所で管理させて頂いている。必要な物がある時は、ご家族と連絡を取り対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への電話の取次ぎ等を支援している。利用者様が自ら希望され、家族様へ電話される事もあり、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂の壁に利用者の制作した作品を掲示したり、テーブルに季節の花を生けたりし楽しんでもらっている。	★窓が大きく、景観から季節を感じることができる。居間や廊下には絵などの作品が飾ってある。エアクリナーを設置するなど、居心地よく過ごせるよう配慮している。愛猫を1匹飼育し、両ユニットを行き来しており、利用者の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の工夫をし、思い思いに過ごして頂いたり、会話を楽しんで頂ける様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や人形・ぬいぐるみ等ご本人が大切にしている物を置き、落ち着いて過ごせるよう配慮している。	居室には使い慣れた家具や家族の写真、大切にしている鉢植えやぬいぐるみなどが置いてあり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に動け、移動がしやすい配置にすることで、事故のリスクを最小限に抑えています。利用者様が可能な範囲で自分のできることを尊重し、できる限り自立した生活が送れるよう支援している。		

目標達成計画

作成日 令和 7年 3月15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間	評価(R 年 月 日)
1	33	利用者の高齢化に伴い、看取りケアが増えていくことが予想されるが、経験豊富なスタッフが少なく、知識も十分でない。	看取りケアに必要な知識・技術を習得するための教育・研修を行い、スタッフのスキル向上を図り、質の高い看取りケアを提供する。	・看取りケアに関する研修や勉強会を開催し、医療・介護の基礎知識や最新のケア技術を学ぶ。 ・看取りケアを実施した実際のケースについて、スタッフ同士で定期的に振り返りや共有を行い、経験を共有する場を設け、実践的な知識や技術の向上を目指す。	12ヶ月	
2	35	避難訓練を年2回実施しているが、いずれも火災を想定した訓練である。今後は地震・水害等の自然災害を想定した訓練を検討・実施していく必要がある。	・地震や水害、その他の自然災害発生時に迅速かつ適切な対応ができるよう、職員と利用者の安全を守るための体制を整備する。 ・災害時の地域との連携や情報共有を強化し、避難や支援活動における協力体制を整備する。	・自然災害時の具体的な対応マニュアルを作成し、マニュアルに基づいて訓練を行う。	12ヶ月	
3	27	個別の介護記録内容が希薄であり、日々の様子や気づきの記入が少ない。記録に割く時間が充分に取れないこともその一因となっている。	介護記録の内容が明確かつ詳細で、利用者の状態やケアの内容が把握できるようにする。	・介護記録を簡素化し、手書きの負担を減らし、スタッフが効率的に記録できるようにする。(例: 必要な項目をチェックリストにし、該当する項目にチェックを入れる形式にする)業務負担を軽減することで、利用者に対するケアにもっと集中できる環境を作る。 ・利用者の状態やケア内容に関しては詳細に記入する。	12か月	

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。